

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191400011		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム つばき		
所在地	佐賀県東松浦郡玄海町平尾380-8		
自己評価作成日	平成27年12月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年12月21日	外部評価確定日	平成28年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.月に1回のグループホーム会議では、各利用者のリスクを話し合う事で情報の共有とリスク回避に繋がり、開所より転倒による骨折事故は起こっていません。</p> <p>2. 職員のレベルアップを図る為に併設されている施設での研修会に月1回参加しています。又グループホームの取り組みについての実績を法人内で行われる研究発表や外部での研修会にて発表しています。</p> <p>3. 家族会を季節毎に運営推進会議を2ヶ月毎に行い、ご家族や地域との交流を深め開かれた施設を目指しています。</p> <p>4. 各お部屋には、馴染みの家具や布団を持ってきて頂く事で家と継続した生活ができる工夫を行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>玄海町の小高い丘にある特別養護老人ホームに隣接して建つグループホームである。玄関先に立つと、広い空と木立・里山の広大な景色が目に入ってくる。遠くには玄界灘も望め、天気の良い日には青い海に浮かぶ島が美しいという。玄海原子力発電所に近いために防災意識が高く、隣接特養の建物はシェルターになっており、原発事故など不測の事態にも対応できる。自衛消防団を組織し、利用者も参加しての消火・避難訓練や防災訓練のほか、職員だけで夜間訓練を実施して実際の夜の暗さを確認するなど、不測の事態に備えている。職員は、地域の民生委員の勧めで老人会の集りに参加し、アドバイザーとして認知症の早期発見や早期対応につながる相談にあたっている。地域の認知症対応型施設としての施設の良さをアピールするより、玄海町という地域が大事にしている地域のまもり・その人らしさを大切にしたい対応を心がけている。家族との深いかかわりが実践されているのも特徴の一つで、ホームで実施される行事食には、毎回ほとんどの家族が参加され盛大に開催されている。日常的に面会も多く、おやじバンドなどで慰問される家族もいる。景色が良く、防災意識が高く、24時間ケア体制が整った特養に隣接し、家族の参加・面会が多いのが特徴のホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきグループホームの目標を作成しています。目標や理念は各職員が職員ノートに記載共有実践しています。	「癒しの空間でのんびり楽しく自分らしく」という事業所理念をつくり、家庭に居る様な雰囲気の中で自分らしい生活が送れるように、職員皆で支援している。職員各自が理念をノートに自書して具現化に努めている。管理者と職員は、日々の業務を通して理念に沿ったケアの確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問の受け入れがある際は入居者の方に声掛け行い参加を促しています。また夏祭りや運動会を併設施設と一緒にいき顔見知りの方との繋がりを継続し持てるようにしています。	自治会に入会し、隣接事業所を介して地域との交流を行っている。住民同士のつながりが密で、且つ地元を大切にする意識の強い住民感情を尊重した交流を心がけている。地域の特性を理解できるようになってきたため、今後は事業所単独で地域住民との交流も考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を活かし町内の方を対象に認知症ケアサポーター研修を行っています。オレンジリングを配布し認知症の正しい理解と支援に繋げる取り組みを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	待機人数、入居者の状況報告を行っている。外部評価を受けた際には運営推進会議で報告をしている。入居者の金銭的負担が少しでも軽くなるよう個々の状況に応じて対象となる制度等がないか会議の中で話し合いを行っている。又対象となるものがあればご家族に案内している。	運営推進会議は2か月に1度開催されている。委員に地元住民や外部関係者が少ないためか、活発な情報交換の場となっておらず、委員を増員するか検討中である。委員の提案で管理者が地元老人会に出向き、認知症に対する理解や早期発見につながる交流を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加して頂き定期的に連絡を取る手段を確保している。年1回ほど食事会を兼ねて運営推進会議を行い、ご家族からの意見を聞ける場を設けている。	行政職員が運営推進会議の委員でもあることから、日頃から協力関係がある。管理者は認知症サポーター研修の講師を務め、介護の日には相談員として参加するなど、行政と協働関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について併設施設と委員会を設け取り組んでいる。玄関はボタンを押さないと開かない仕組みであるがペランダへは自由に入りできる。外出も要望がある際には個別に対応を行っている。	事業所の方針として、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。職員は、何が拘束にあたるかを毎月の会議で検討・確認しており、利用者に対し精神的な苦痛や言葉による苦痛の無い支援を心がけている。玄関は施錠しておらず、利用者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について併設施設と共に委員会を設けており年1回勉強会を設けている。虐待につながる可能性のある曖昧な部分も職員間での話し合いを行うなどして不適切な対応にならないように意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設と連携し成年後見制度に関し勉強会を行った。又玄関には成年後見制度についてパンフレットを設置する事で活用に繋がる働きかけを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結に際し時間を設けご家族の不安や疑問に思われることに対し十分な説明を行い理解を得られる様に努めている。不明な点があれば電話をしてもらうように声掛けを行い不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族代表にも運営推進会議に参加してもらいその中で報告を行っている。職員にはグループホーム会議内や伝達ノートを使用し、管理者への報告は会議録閲覧やホーム長からの報告を行い情報を共有している。	居室には家族が自由に書き込める家族連絡ノートを置いており、意見や要望の把握に努めている。重要事項説明書に苦情申立先を明記し、契約時に説明している。出された意見や要望は職員間で共有し、できる事はすぐ対応したり、ケース記録に反映させるなど支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や年2回直属上司との面接がありその中で職員の意見を聞く場を設けている。	管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。また、施設長と管理者も何でも話し合える信頼関係を築いている。出された意見や提案は検討し、利用者の見守りを充実させるために勤務時間帯の変更や勤務体制の見直しにつなげるなど運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に年間を通じた目標を立て、年2回評価を行う事で本人の実績、達成度、努力等を把握する機会を設けている。又その評価が給与に反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に年間を通じた目標を立ててもらい目標達成に必要な働きかけや外部研修へ参加への機会を設け技術や知識の向上習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回併設施設と合同で研修を行う事や町内で行われる地域ケア会議に参加することでサービスの質の向上やネットワークづくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時点で困りごとがないか聞き取りを行っている。ご家庭での生活の延長として生活できるように家具や寝具使い慣れたものの持ち込みの協力をお願いし環境を整えている。又施設生活に慣れるまで面会や宿泊をすすめ不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と話をする機会を設けておりその中で困りごとや不安に思われている事を把握し関係構築に努めている。又生活歴や収集した情報はケアプランに反映し情報の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際ケアカンファレンスを行いケアプランの中の優先順位を見極めサービス提供を行っている。外部サービス利用として出張理容を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる事、能力を活かし日常の動作に活かしている。カレンダーめくり、洗濯物たみ、カーテンの開閉など。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にはゆっくり過ごして頂けるようお茶や場所の提供を行っている。心配事や帰りたと言われる方には声掛けだけを行うのではなくご家族へ面会や外出の依頼を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設行事等で地域の方を招いたり、併設施設で顔見知りの方とお茶を飲む機会を設けている。	入居契約時にアセスメントをとり、馴染みの人や場所との関係、生活歴を把握するように努めている。生活歴情報シートで詳しく分類された情報を基に、利用者一人ひとりに合った支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握、食事の席を決めている。又関係性が変わる事があればその都度話し合いを行い変更を行う。セミプライベートスペースでは席を決めず入居者同士の関係の構築に繋げ孤立されないように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終えた時には「困り事があったらいつでも連絡してください。」と声掛けをしている。実際に退居されたご家族より連絡があり「ケアマネを紹介して欲しい。」という相談を受け案内を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向や要望についてはケアプランに反映している。生活をされる中で発生する要望についてはできる範囲ご家族に相談し協力を得ながら答えるようにしている。又意思表示が難しい方へはご家族と話をしながら本人本位になるように努めている。	職員は利用者の状態をよく見る事を心がけており、平常と違う様子に気づくように努めている。発語の無い利用者には、家族から聞いたり表情やしぐさから意向を汲み取るように努めている。管理者は職員に「小さな変化でも見つける目が大切」と指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集する際に把握し、フェイスシートや生活歴に反映し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表に一日の過ごし方を記入している。心身状態や有する能力はアセスメントシートに記入し定期的に見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはご家族からの要望も聞き課題を見出している。又職員やご家族からの意見や情報等を聞き計画書の作成を行っている。	具体的な介護計画が立てられており、解決すべき課題や目標・援助内容が分かりやすく書かれている。毎月のGH会議で支援経過確認がなされており、現状に即した介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態、ケアプランのサービス内容の実施記録についてケース記録に残し、日勤帯と夜勤帯での情報の共有を行っている。又ケアプランの見直す際もその記録を基に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの要望等にはできる限り対応できるよう柔軟に検討を行っている。又家族も大事な資源と捉え協力が得られれば活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の入居前の暮らしを把握し本人が望むことに応じて生活の中に取り入れる工夫を行っている。(地域行事参加、なじみの店から商品購入、理容・美容の店など。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の訪問が週1回ある事の説明を行いご家族、本人様を選んでもらっている。提携医以外でご家族が受診を希望される方は受診ノートを使用し情報の共有に努めている。	利用者や家族の意向を大切に、事業所の協力医への変更の他、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は家族の送迎を基本としている。受診結果は言葉での説明や報告とともに受診ノートを活用しており、医師・家族・事業所は受診情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ併設施設の看護師や往診の看護師に相談、報告し指示を仰いでいる。体調不良時の受診指示があればご家族に連絡報告行い職員も付き添い受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には定期的にお見舞いに行き治療の状況や状態、退院の日程について情報を得ている。又入院の際には情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合でもご家族や本人の意向に沿う事を伝えており、ご家族や本人と話し合い必要に応じ地域関係者や医療機関の照会を行っている。	契約時に本人及び家族に対し、事業所ですることできないことを詳しく説明している。入院や重度化するなど利用者の状態に合わせて家族と話し合う体制ができており、退居後の相談にも乗っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回併設施設と共同し緊急時対応について研修を行い対応についての実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理マニュアルを作成し昼・夜間想定で年2回避難訓練を実施している。地域消防団にも協力してもらい協力体制もできている。原子力防災訓練にも年1回参加している。	年3回の消火・通報・避難訓練と年1回の原子力防災訓練を実施している。隣接事業所合同で自衛消防団を組織し、駐車場の地下に防火水槽を設置するなど、災害対策の充実に努めている。また、隣接事業所建物はシェルターになっており、原発事故など不測の事態にも対応できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や人格を尊重し生活歴を基に声掛けを行うように努めている。言葉の虐待にならないようにグループホーム会議等でも話し合っている。	個人情報を使用する目的や使用条件を明確にしている。契約時に本人や家族に説明し、同意を得ている。外部に出る写真や映像は慎重に取り扱われ、同意を得た人であっても必ずその都度確認を取る様にしている。職員は、利用者本人の人格を尊重した言葉かけや口調に注意し、敬意を払った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で個々の思いや希望を聞くように努めており話された事はケース記録に残し共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位の一日の流れにするのではなく個々の要望やペースを大事に一日を過ごしてもらえるように努めている。日曜日は業務を軽減し要望に答えられる体制を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の要望により髪を切る際理容や美容どちらを利用されるかカラーリングの要望がある際に職員が行い整容を整えその人らしい身だしなみをして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際に食べたいものや好きなものを聞き取り入れている。利用者には食器を下げる際に重ねるなどして頂いている。	献立は1週間単位で立てられるが、手元の食材や利用者の要望で柔軟に変更されている。行事食の時は殆どの家族が参加されており、家族と一緒に大勢で食べる食事は利用者の楽しみや笑顔につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や飲み込む力によって量や食事形態を検討し提供している。飲み物は嗜好やその時に飲みたいもの、種類を提示し選んでもらい提供している。必要に応じてご家族に依頼している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お部屋の洗面所で口腔内のケアとコップなども週に1回消毒を行っている。拒否がある際は時間を置いたり対応する職員を変え行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を個別に作成し排泄パターンや排便の間隔、便の状態をシールで色分けし把握するようにしている。座位が保てる方に対しトイレに座ってもらい習慣をつける事でトイレでの排泄を促している。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。排泄表を活用し、時間や態度・様子を見ながら誘導し、トイレで排泄できるように支援している。できるだけ、布パンツで快適に過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為にこまめに水分を提供している。あまりお茶を飲まれない方には好まれる飲み物やゼリーなどを提供し水分を摂ってもらっている。毎日朝食時にヨーグルトを提供し予防と改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際声掛けを行い拒否がある時は時間や日にちをずらすなど対応し個々に応じた支援を行っている。	入浴は週2回が基本であるが、要望があれば毎日でも入浴可能である。リフト入浴装置使用で座ったまま浴槽に浸かることができ、筋力の衰えた人でもゆっくり入浴を楽しめている。入浴しない時でも個々に応じて下着交換がなされ、清潔に配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類はできるだけ持ち込みを依頼し馴染みの物で気持ちよく眠って頂けるよう支援している。夜間眠られていない時など昼寝をして頂くなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にお薬情報がわかるようにファイリングし効果や副作用等が解るようにしている。服薬の支援についてこちらで管理を行い飲み忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基に個々の習慣や能力を活かした役割を持って頂き、嗜好品についてはご家族と相談を行い持ってきて頂く様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望に沿い戸外へ出かけられるように機会を設けている。自宅に行きたいと言われる際にはご家族に相談を行い協力を得て外出を支援している。	外部から車が進入して来ない広い敷地内は、散歩したり日光浴するのに適している。庭の桜やコスモスを愛でながら弁当を食べたり、お茶会もしている。また、波戸岬や鷹島などへのドライブなど、利用者の要望に沿った外出支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は買い物の際に使われたりしている。基本的にはトラブルにならないようご金銭の管理はご家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われた際は職員が事務所にて番号を押すまでの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	聞きなれた音がきけるように歌番組を録画している。リビングには光を多く取り入れられるよう窓を大きく日中は明るい。ベランダにも出られ野菜を植えている事で季節を感じてもらえる様配慮している。台所は対面式になっており作業様子や調理の香りが伝わるようになってい。玄関からは海も見える。	1日2回、食後に窓を開けて換気することを心がけ、心地よく過ごせるように支援している。ホーム内は広く、ふんだんに木材が使用され、明るくゆったり落ち着いた雰囲気である。手が触れる様な場所は次亜塩素酸消毒液などで拭き上げ、殺菌・消毒にも心がけている。また、オゾン脱臭装置や芳香剤を活用して不快な臭いの除去にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、和室には炬燵を置き気の合った方同士で過ごして頂けるように整えている。又和室はふすまで仕切りができる為ご家族の面会時にも利用して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋にはなるべく自宅で使用されていた家具や寝具などを持ち込み頂ける様に入居の際に話を行っている。	居室はトイレと洗面台付きで、フローリングの洋室と畳敷きの和室がある。入居契約時に、自宅で使い慣れた馴染みの品の持ち込みを勧めしており、布団や冷蔵庫・テレビ・座椅子・ソファなどが持参されている。タンスの上や壁には写真や時計・手芸作品・カレンダーなどが飾られ、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の能力を活かし日常生活の中で役割を持って頂いている。又部屋の中で個別に危険箇所が異なり転倒の可能性がある方は床にクッション材を敷くなど怪我の予防を行い安全に生活ができるように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない